

伊那発明学校の歴史

昭和59年の3月に織井常和氏現在の(株)織建の会長が発起人に成り、長野県発明研究会の木藤会長の助言も頂き、伊那日曜発明学校との名称で開校しました。今年で早28年に成ります。

当時は伊那公民館で例会を行っておりました。今思い出に残るのは、黒田さんと云う女性の方で中学校の家庭科の先生をしていた方が、何時も先に会場に行き自前のお茶菓子を用意して持っていてくれた事です。その方はもう亡くなりました。

当時14名位で始まりました。多くの皆さんに支えられ発明の助言やアドバイス協力をなされて来ました。特に馬場君ですが述べ10回もの会長を務めて頂きました。彼の所にはアドバイスや助言を求め多くの方が常に集まっていたことを思い出します。時には彼のお店の二階で例会をしたこともありました。

こうして地域社会にとっても常に情報を発信し物作りや考える事の楽しさを発信し続けて参りました。伊那市の小坂市長さんも入会頂きました。この事も私たちの日頃の活動が広く理解された結果と思いました。この間メンバーの中から「全国発明コンクール」入賞「読売新聞社賞」を受賞又新聞テレビ出演等々会員の活躍が多く報道されて来ました。中にはクラブの皆さんに助言を受けて完成した商品が3億円以上の売り上げがあった商品もありました。

なんとといっても平成19年9月30日「例会300回記念イベント」「ひらめき・きらめき・おどろき」発明展が伊那市の「いなっせ」にて開催された事です。伊那市教育委員会、商工会議所、長野日報新聞社、さらには地域優良企業伊那食品工業等の協賛を頂き盛大に開催されました。

内容としては会員が取得した特許・実用新案・を有したのから工業有権を取得したものの又権利は持たないが公開されたアイデア等々を持ち寄り開催しました。県内の発明クラブの皆の協賛も頂き、会場いっぱい製品が並び、この展示会により一般市民主婦からお子さままでが発明とはこんな楽しいものかと関心を持って頂けた事と思えますし又感動も与えられたのかなと思ひ皆してこのイベントの成功を喜びました。

伊那クラブも精鋭の皆さんにより引き継がれ続けている事に敬意を表します。近年創立30周年を迎えます。記念イベント開催の検討も視野に会員一層の奮起を御期待申し上げて御報告と致します。

伊那発明学校 支部役員履歴 (H24 /10 現在)

織井 x1、馬場 x10、池上 x4、小田切 x4、中村 x6、今井 x2、名和 x2
薄木 x2、御子柴 x2、城倉 x6、千田 x2、大林 x2、吉田 x2、田中 (武) x2
唐沢 x2、近藤 x6、田中 (健) x2、有賀 x2